

# 歴史建築を描く



**添田 寿太郎** JUTARO SOETA

1952年福島県熱海町生れ

一級建築士

一級建築透視図技能士

添田寿太郎透視画工房主宰

歴史建築それは長い時代の幾多の災害を乗り超え現存する貴重な文化遺産です。世界最古の木造建築法隆寺、奈良平安の寺社建築から明治以降の近代建築の数々。

先人の文化技術の素晴らしさはものつくりとはどうあるべきかを語っています。素晴らしい歴史建築を前にして思うのはこの建築を描いて作品にしてみよう。レンダラーならそのように思うのではないかでしょうか。

今から17～8年前、色々な思いから歴史建築をテーマに制作することを思い立ち、これまで培ってきたレンダラーの技術でどこまでやれるか挑戦してみようと始めました。私の場合、住んでいる郷土の近代建築を対象に始めました。擬洋風建築の郡役所、学校などの公共建築が資料も入手しやすく見学も比較的自由でしたのでこれらの建築を選びました。実際これらの建築が当時の遺産建築となり重要文化財などの指定を受けています。丁度良かったと思っています。

建物は現存しているのですが図面などの資料がなかなか入手できないのです。困りました。考えた末にレンガを使用していればそのレンガの数を数え、窓枠の寸法をもとに建物の幅を割り出したりと部分と全体の照合を繰り返しながらの連続作業でした。ただこの作業が建物をより深く観察することに大いに役立つことになりました。

或る時お世話になっていたJARA会員の方からコンペ作品募集の事を知らされました。

これまでやってきたことをいろんな点から確認するには絶好の機会だと思いました。最もやりがいのある中之島公会堂を選び、建物建設に出資された方そして設計者がどのような想いでいたのだろうなど思いを巡らしながらの作業でした。

辰野金吾博士がうなずいてくれる作品を作ろう。そうすればコンペ選外でも気持ちの整理がつくと。入賞を知られたときは天にも昇る想いでした。これまでお世話になった多くの方に感謝の言葉を伝えたい、レンダラーとして最高の気持ちでした。



**中之島公会堂**  
建築バース 2005 展「JARA 大賞」準優秀賞作品

レンダラーはその読み解力と描画技術で見て感じたことと建物の持つすべての情報と魅力を細部に至るまで描画できます。それは写真、絵画とは違う全く別の分野です。

その建物だけが持つ個性的な魅力をレンダラーがどれだけ引き出し描画できるかレンダラーは建物に試されています。しかし私はひるむことは無いと思っています。すべてはその建物の中に存在します。それを引き出し描ききり作品にする。3Dと2Dそして光線までも自由に使いなおかつ手描きの技術をもってまとめてあげるハイブリット表現、歴史建築を描画するには最適の表現技法と思っています。歴史建築の作品をどのように作り上げていくかですが、まず資料収集からです。

現地に行き建物と周囲の関係観察、材質形状を確認できるあらゆる角度から写真撮影を行い記録します。集めた資料と現地観察の記憶をもとに撮影した写真から建物を読んでいきます。大切なことは建物を見る、そして建物を全体から細部までより深く読むということです。建物をどれだけ深く読むことができるかが作品の完成度を左右すると考えています。

つぎに3Dソフト(私の場合ストラタ3D)でのモデリングです。建物全体の形を念頭に置き細部を原寸レベルで作り込んでいきます。



**文翔館**  
建築バース 2010 展「JARA 大賞」優秀賞作品



**坂野家住宅**  
建築バース 2010 展「JARA 大賞」審査員賞作品

読んだ建物が作品として最高レベルの作品になるようにイメージはいつもそこです。そのようなときに思うのは、設計者はどのような想いで設計していたのだろう。現場での指示は?など色々です。3Dにてモデリングがまとまった後は2Dソフトでのまとめとなり作品完成です。

そのような手順で作品制作をしていますが制作前の資料収集現地視察の時には同時に近くに存在する歴史建築も見学することになります。建築と対話をしながらの建物見学です。少しづつ次の作品の制作候補の計画を立てます。

資料収集、見学についてはいろいろと苦い思いをすることがあります。

ある城の復元図を描いてみたい想いで駆られていた時、ちょうど櫓の図面が見つかり復元されるニュースがありました。担当役所に伺い描かせていただきたいと願い出ましたが、その目的は何だ、この図面は出せないと剣もほろろ突き放されてしまいました。またこんなこともあります。コンペ出品の中之島の建物細部が知りたくて夜行バスで郡山から大阪にゆき建物の外観細部を撮影していましたら関係者と思われる方が撮影禁止、コンペのことは聞いていない、退去せよとの一言でした。仕方なく遠巻きに撮影してきました。そのほか色々とありますが慘めな想いですでやめておきましょう。

ただ心の底から感謝したい時もありました。こちらの希望を理解して頂きなおかつ親切に協力して頂けた時は本当に頭が下がりました。

一つの作品が完成して暫くしますと新たな作品制作にかかりたい想いが出てきます。これまでの経験をもとに更なる作品制作の継続です。2010年のJARAのコンペにも出品しました。これまでの歴史建築の表現に依った作品と手描きの手法に依る作品が入賞しました。描く対象により表現を変えることは間違っていました。建物を読み、より深いところで描く、またレンダラーとして技術を磨くことを怠ってはいけないその意味をこの受賞に依って再確認する事になりました。この時審査員の先生から頂いた選評は私のレンダラーとしての勲章、生涯の宝です。

レンダラーとして歴史建築になにがしかの貢献ができるばとの想いで制作していたのですが2011年の地震と原発事故は大変でした。原発事故の後遺症は今なお続いている。原発設置からむ色々の事、結果このような事を起こしてよいものだろうか、想定外などあってはならないし、してはいけないことのはずだと思います。

歴史建築が気にかかり余震の続く中を自転車に乗り見て回りました。道路は亀裂があり浮き上がり多くの建物が被害を受けていました。歴史建築も例外ではありませんでした。

しばらくして昭和初期に建設された安積疏水事務所貴賓館が解体されると知らされました。

素晴らしい歴史建築でした。地域の歴史を伝える建築として後世まで残って欲しかったです。解体される前に、建物を現物確認できる間に作品として残す事ができればとの想いで再制作にかかりました。必死の作品完成と時を同じくして解体終了しました。瓦礫の中にあったスクラッチタイルと屋根瓦の破片が私の机の脇に静かに休んでいます。震災後JARAの皆様には多くの励ましを頂きました、感謝です。

作品制作を続けていく上では発表の機会も必要です。2015年7月に歴史建築を描くと題し品川のO美術館で念願の作品展を開く事ができました。制作してきた作品の中から47点を展示しました。この時もJARAの皆様には大変お世話になりました。発表することでも新しい段階に進む道が見えてくるように思っています。制作発表の作品が歴史建築の何かに繋がってくれればと願っています。JARA作品展にはこれからも歴史建築の作品をテーマに継続して出品して行こうと思っています。いろんな経験をしながらの歴史建築との付き合いはまだまだ続きそうです。